

カキ「太秋」の優良結果母枝の選定基準

カキ「太秋」は、短い細い枝では雌花が着生しないため、毎年安定した収量を得るためには、充実した 30cm 以上の結果母枝を用いる必要がある。

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部(担当者：谷口 政弘)

研究のねらい

「太秋」は、雄花が着生する特性があり、弱小な枝では雌花が着生しないため、結果母枝として使う枝は、従来の品種と比べ、全体的に強いものを用いる必要がある。そこで、結果母枝の資質と結実及び果実品質との関係を解明し、毎年安定した収量と品質を得るための枝梢管理法を開発する。

研究の成果

1. 結果母枝が長いほど雌花の着生数が多い(図 1)。
2. 結果枝は結果母枝の先端近くから発生したものほど長く、結果母枝が長いものほど同節の結果枝は長い(表 1)。
3. 結果母枝が長いほど長くて太い結果枝が発生する(図 2)。そのため、次年の優良な結果母枝の確保も可能である。
4. 結果母枝が長いほど着果数や収量が多い(表 2)。
5. 果皮色や生理障害については結果母枝長による差はみられないが、果肉硬度と糖度については、20cm 未満の枝の果実が 20cm 以上の枝の果実より劣る(表 3)。

普及上の留意点

1. なるべく長い結果母枝を利用し、摘蕾、摘果を徹底して、適正着果に努める。
2. 優良な結果母枝を毎年安定して確保できるように、樹勢を強く維持し、予備枝を多く配置する。また、弱った側枝は基部 10 ~ 20cm を残して切り戻し、陰芽の発生を促す。

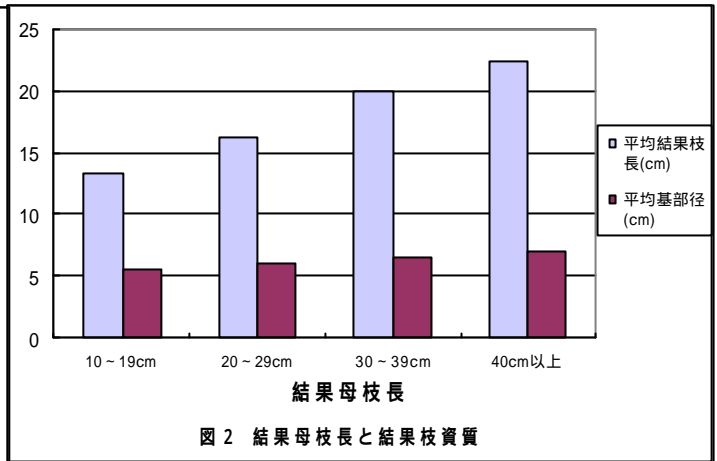
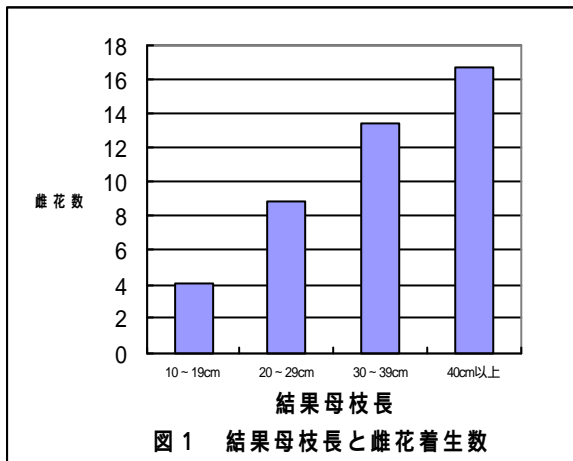


表1 結果母枝の節別平均結果枝長

試験区	頂芽 (cm)	2芽 (cm)	3芽 (cm)	4芽 (cm)	5芽 (cm)	6芽 (cm)	7芽 (cm)	8芽 (cm)
10~19cm	23.3	12.7						
20~29cm	31.7	20.1	15.5	12.5				
30~39cm	38.7	27.6	23.9	14.9	14.5			
40cm以上	46.7	29.0	33.7	28.9	25.8	22.1	18.0	12.7

表2 結果母枝長と果実品質と着果数及び果重

試験区	横径 (mm)	縦径 (mm)	果重 (g)	着果数 (個/本)	全果重 (g/本)
10~19cm	103	71	452	2.5	1109
20~29cm	101	70	434	4.8	2006
30~39cm	100	70	414	7.3	3013
40cm以上	97	68	387	9.5	3676

表3 結果母枝長と果実品質

試験区	果皮色(カ-チャ-ト値)			果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	果頂裂果	ヘタスキ	汚損果
	果頂部	赤道面	果基部					
10~19cm	5.2	4.7	4.2	3.5	16.5	0.0	1.4	0.9
20~29cm	5.0	4.4	4.0	4.1	17.7	0.0	1.4	0.8
30~39cm	5.0	4.3	3.9	4.3	17.3	0.0	1.6	1.3
40cm以上	5.0	4.3	4.0	4.4	17.0	0.1	1.5	0.8

注)ヘタスキの程度:0(無)、1(微)、2(軽)、3(中)、4(甚)

汚損果の程度:0(無)、1(軽)、2(多)